

震災から1年の関連記事へのコメント

震災から一年に関連して、HPに「大震災から1年、まだまだ震災は続いている… (3/10)」、「まだまだ長い道のりだけに、一步一步、ゆっくりと… (3/11)」、「地域の中学校卒業、おめでとう、よく頑張ったね! (3/12)」と、3日連続して記事を書きました。記事を目にしてくれたたくさんのメル友から、早速コメントをいただきました。

2012. 3. 27. 現在

阿部 幸泰

①先生のお知り合いの方の、バスがおろされる映像を見ました。

津波の威力を物語るシンボルのように、約1年あつた場所にあつたバスを、どんな思いで見守つたのでしょうか…

風景には、そこにあるものには、一人一人の思いがつまっていることを改めて感じさせていただきました。

だからこそ、自分の見えているものだけでなく、目の前にいるあの人には何が見えているのか何を思つているのかを知ろうとすることが大切なのだと思います。

自然の力の前では、わたしたち人間は首を垂れることしかできないかもしれません。

でも、人と人が向き合うとき、わたしはその人にできることがあるし、その人からも何かを与えてもらうことができる。

少しでも多くの人に、与えられる人になりたいです。

②今日一年目の報道を見るたびに、改めて凄まじさを思い返し言葉もありません。

被災された皆様に平穏な日々が訪れるよう祈るばかりです。

③以前の生活は過去になってしまいました。過去は元には戻りませんが、毎日新たな日を、日本人みんなで作りましょう…と気持ちを沈ませないようにしたいものです。

④たくさんの悲しい、そして大変なことを抱えて、日々を共に生きた場所を訪れ、共に過ごしたバスを見上げ続け、阿部くんのお知り合いは、元気を貰いながら、“早く降ろして

もらおうな〜”と、何度語りかけたことでしょうかねえ。

バスを見つめていると涙が溢れてきました。お気持ちはいかばかりか言葉もなく、、、。

宮城の地に過ごす繊細な阿部くんも心配です。ご自愛のほどを！

⑤ニュースで 拝見しました。

まだまだ 大変な 状況ですね 我々は 映像で 知るだけですが 本当に 大変！ が伝わってきます

本当に皆さん 強くて 頭さがりますね

⑥先ほどテレビ朝日のニュースで拝見致しました。

バスが下ろされ、明日からは新たな一步を踏み出すことになるのでしょうか。

私には津波を体験した方々と想いを共有することは難しいですが、新しい町の完成を夢見る皆さんを応援したいと思います。

⑦ニュース見ました。

津波を思い出すので、早く下ろして欲しいと言う人もいれば、おじさんのお知り合いの様にそれを力にしてきた人もいるのですね。

周りは片付いていっても、人の心はそんなに簡単に整理のつくものではありませんものね。

明日を区切りに何か変わりたい人もいれば、何も変わらないと言う人もいるのでしょうかね。

複雑な気持ちです…。

⑧あの、バスの記事は、震災での苦しい思いが、とても強く伝わってきました!!

きっと、その思いは私には、じゅうぶんのいちもわからない事だと思います。

きっと、バスを見るたびに、励まされ、勇気づけられ、何度も泣かれたのでは…と思います。

どうぞ、頑張っしてほしい…と心から思います。

⑨3月11日、私も家族と友人とともに我が家で黙祷をささげました。

震災に対する人の思いは様々で、私も宮城の出身だからといってそれだけで当然のこと

ながら理解できるものではなく、同じ境遇にあったからといってそれだけで理解できるものでもなく、しかしながら、それでもお互い理解したいという思いであり、それは障害がある子どもさんの親御さんとのお付き合いとも同じであるといえるでしょう。

⑩昨日、TちゃんにTVで会えましたよ(^_^)/

Tちゃんの笑顔に癒され～疲れが吹っ飛びました。

昨日は、たまたま義母の転院～大学病院の緩和病棟へ入院することになり一日休みました。

帰宅して、テレビをつけ、それがたまたま「Nスタ」だったんですよ。本当にびっくりしました。

もう卒業なんですね。早いですね。

お母さんの地域の子として学ばせたいという思いが伝わり地域の中できちんと受け入れられて来たんだと思います。

お母さんも、お父さんも、お姉ちゃんたち、おばあちゃんも本当に頑張ってきて来たと思います。(いつも家族の真ん中にTちゃんがいたんですよ。)

⇒阿部さんの思いが伝わり見れたんだと思います。ありがとうございます。

⑪一年以上過ぎてもなかなか復興が進まない地域も多くたいへんですね。

「絆」と一言でいうのは簡単ですが、被災者の心に届いてこそですよ。

確かに、報道から目を反らさずしっかり見ることからだと思います。

辛いことから逃げていては前に進めないですよ。

逃げる時が必要でもまた、たちもどり現実を受け止めそこから再出発ですよ。

被災地の現状があまりに大変で私自身逃げたい気分でした。

阿部さんのHPを読んで微力でも前向きにならなきゃと考えました。

ひとりの力は弱いけど集まれば強くなりますよね。

⑫地域の中学校を卒業した女の子のお話、これまでいろいろ御苦労されたと思いますが、お母さんの思いが地域の方たちによって現実になっていることに感動します。

「ともに生きる」というのは、こういうことなのでしょうね。

災害時にも地域の方たちが支えになってくださったのは、地域での暮らしを選択し、障害をもったお子さんと周りの方たちが同じ時間を共有してきた証なのだと思います。

こうして築いてきたつながりを「絆」というのだと思います。

先生のHPにもありましたが、日本中であれほど「絆」といいながら、被災地のがれき処理に反対する声が多いことに悲しさと憤りを感じます。

福島県のものならまだ感情的にわかりますが、岩手県や宮城県のものすら受け入れを拒む理由が分かりません。

震災の「風化」被害が拡大しないことを願ってやみません。

わたしも震災の特番はいろいろ見ました。

改めて津波の映像をみて、その場に居合わせ体験した方たちはどんな思いだったろう…と考えずにはられません。

本当に忘れてはならないことがたくさんあると思います。

うまく言葉にならないのですが…